

倫理コンサルテーションの意義と方法

永野 功[†]第75回国立病院総合医学会
(2021年10月23日～11月20日WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 4 (300-303) 2022

要旨

神経難病については基本的に根本的な治療法がなく、患者は慢性的な経過の中で身体の機能低下が徐々に進行するうちに、言語機能や認知機能の障害が生じて意思表示が困難になっていく。われわれ医療者はこのような疾患の特性を理解したうえで、神経難病患者および家族の意思を十分に尊重した治療・ケアを進める必要がある。しかしながら、患者・家族の意思を生かしながら最善の治療を目指す過程の中で、時に患者と家族の意向が対立したり、医療チーム内で治療方針について不一致が生じたり、また患者・家族の意向が医学的には受け入れ難いなど、現場にはさまざまな葛藤が付き物である。このような葛藤は病の過程の中でいつでも生じうるが、とくに終末期においては重大な問題となることがあり、医療チームだけでは対応に苦慮する場合がある。現場で生じる多様な倫理的ジレンマについて、第三者の立場で検討を行いその解決を目指す活動が臨床倫理コンサルテーションである。コンサルテーションチームは通常、臨床倫理委員会（Hospital Ethics Committee）のメンバーであり、医療職や福祉職など多職種によって構成される。倫理コンサルテーションは倫理的問題を抱えた医療チームからの依頼に応じて開始されるが、その方法はまず事例についての詳細な情報収集を行い、それを医学情報、患者・家族の意向、患者を取り巻く状況等について整理しつつ問題点を明らかにしていく。問題の検討には倫理規範や倫理原則、各種法令やガイドラインを援用して行い、倫理的に妥当で患者・家族と医療者が納得できる結論を目指す。こうした活動によって関係者の対話を促進し、患者の意思と最善の医療をバランスさせることが期待され、神経難病患者の治療・ケアの中で活用していくことが望まれる。

キーワード 神経難病, 臨床倫理コンサルテーション, 倫理的ジレンマ, 患者の意思

はじめに

神経難病とは、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、パーキンソン病、多系統萎縮症などの神経変性疾患から、多発性硬化症や視神経脊髄炎、重症筋無力症などの免疫疾患まで幅広い疾患を含んでいる。いずれも、根本的な治療法がなく、慢性に進行、あるいは再発

寛解を繰り返す経過をたどる。そのうちに患者は身体を自由を失い、嚥下障害、構音障害が加わり、疾患によっては呼吸障害を併発して生命の危機に直面する。神経難病では基本的に完治は望めないため、治療としては対症療法や緩和ケアが中心となる。慢性進行性の神経難病では救急医療とは異なり、医療者側からの情報提供を受けて患者が治療法やケアの

国立病院機構宮城病院 脳神経内科 [†]医師

著者連絡先：永野 功 国立病院機構宮城病院 院長 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100

e-mail : nagano.isao.sz@mail.hosp.go.jp

(2022年3月16日受付, 2022年4月15日受理)

Clinical Ethics in Intractable Neurological Diseases : the Role and Methods of Ethics Consultations

Isao Nagano, NHO Miyagi National Hospital

(Received Mar. 16, 2022, Accepted Apr. 15, 2022)

Key Words : intractable neurological diseases, clinical ethics consultation, ethical dilemmas, patient preferences